

第2次安曇野市総合計画 後期基本計画 進捗評価

～課題と今後の方向性～ (令和6年度)

政策部 政策経営課

第2次安曇野市総合計画 後期基本計画 進捗評価

～課題と今後の方向性～

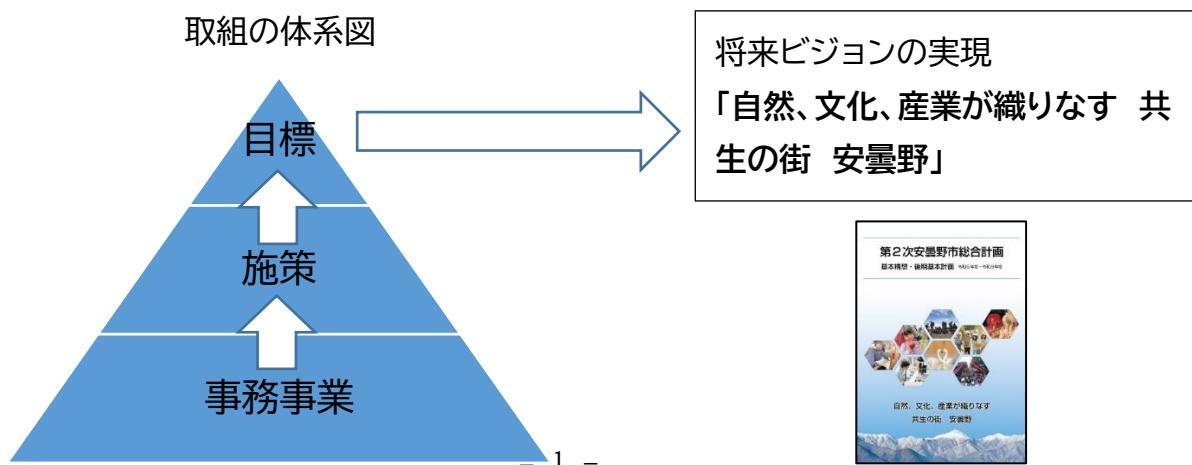
後期基本計画について

安曇野市は、令和5年度から令和9年度の5年間を計画期間とする「第2次安曇野市総合計画 後期基本計画」を策定しています。

また、市が目指すべき「将来ビジョン」として「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」を掲げています。

以下の6つの「目標」は、市の「将来ビジョン」を実現するために市が目指すまちづくりの方向です。その実現のために「施策」を掲げ、具体的な取組として様々な「事務事業」を展開しています。

目標(将来ビジョン実現のためのまちづくりの目標)	紐づく施策の分野
目標1 「いきいきと健康に暮らせるまち」	健康、医療、地域福祉、高齢者福祉、障がい福祉、生活支援、結婚・出産・子育て
目標2 「魅力ある産業を維持・創造するまち」	農林水産、商工、労働・雇用、観光振興、ブランド、アウトドア
目標3 「安全で安心に暮らせるまち」	防災減災、治山治水、交通安全、防犯
目標4 「自然と暮らしやすさが調和するまち」	自然環境、生活環境、温暖化対策、土地利用、景観、水道、道路、公共交通、移住、空家
目標5 「学び合い 人と文化を育むまち」	学校教育、青少年、生涯学習、スポーツ、文化・芸術、歴史・文化
目標6 「みんなでともにつくるまち」	協働、広報・広聴、共生社会、交流活動、デジタル化、行財政運営

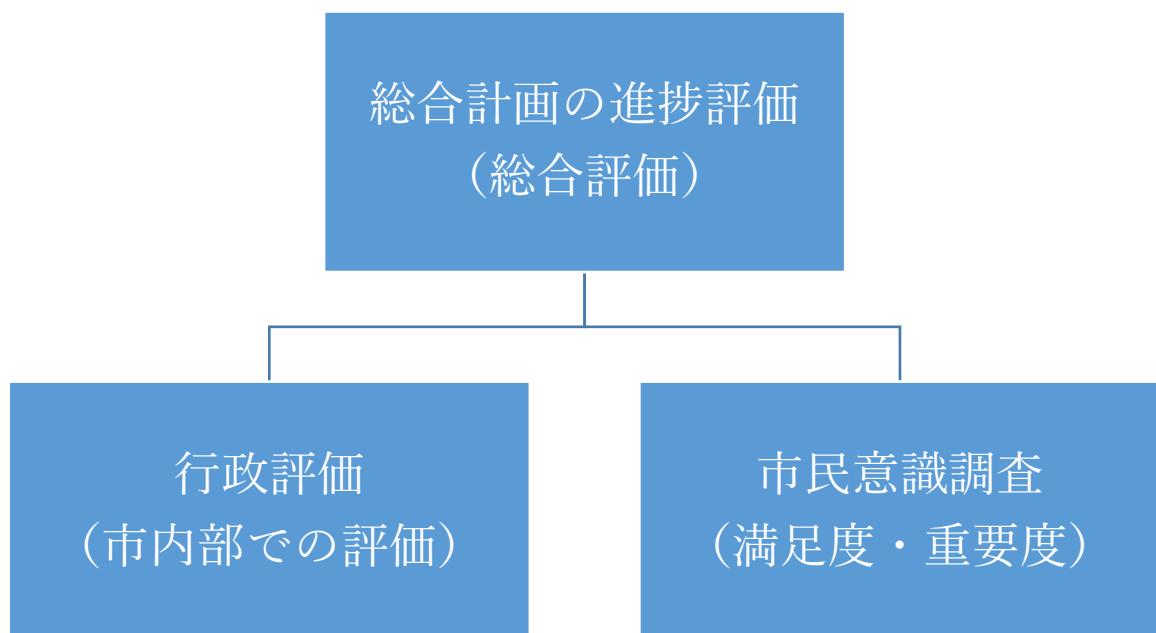


評価の手法

安曇野市では、内部評価として「行政評価」を実施しています。行政評価は、具体的な取組である事務事業に対する「事務事業評価」、そして施策単位で実施する「施策評価」の2本立てとしています。

また、無作為抽出された市民2,000人から市政運営に対する満足度と重要度を調査する「市民意識調査」を実施しています。

今回の進捗評価では、行政評価で各施策の課題や今後の方針を示すとともに、市民意識調査における各施策分野の満足度・重要度の結果をマトリクス別に示しています。
※市民意識調査では、満足度が低く、重要度が高い施策に関する市民の意見を参考として掲載しています。



令和 6 年度 行政評価
目標・施策別 課題と今後の方向性

目標1 「いきいきと健康に暮らせるまち」～課題と今後の方向性～

施策 1-1 健康づくりの推進

- ◆ 国保データベースを活用し健康課題を抽出して生活習慣病の予防や重症化対策に取り組んだ。また、がん検診等の未受診者へ通知や電話による受診勧奨に取り組んだ。一方で、がん検診受診率の低下や精密検査未受診が一定数いることが課題。
- ⇒ 生活習慣病に関しては、重症化予防と生活機能低下の防止を一体的に進めるため、関係部署と連携しながら、事業を推進する。また、特定健診・特定保健指導・がん検診の受診率向上に向けた取り組みを強化していく。
- ◆ 特定健診や健康ポイント事業を実施し、健康への関心を高める取組を進めたが、高齢化や被用者保険拡大の影響が大きく、受診率は目標未達である。
- ⇒ 関係機関と連携しながら未受診者や中斷者等への個別勧奨と、健診を受診しやすい環境・体制整備を進める。また、健診結果を生活習慣病や介護予防に活かすため、保健指導や関連事業を実施していく。

1-2 保健衛生の充実

- ◆ 妊婦・小児インフルエンザの接種助成を継続し、令和6年度からは帯状疱疹やおたふくかぜへの助成も開始して、感染症予防と経済的負担軽減に取り組んだ。予防接種のニーズ把握と、帯状疱疹が定期接種化されることを踏まえた助成対象の見直しが課題である。
- ⇒ 今後も事業を継続しつつ、市民への周知と周辺市町村の動向を踏まえた方針検討を進める。

1-3 地域福祉の推進

- ◆ 社会福祉協議会を中心に行政・住民・団体が連携して地域福祉事業を進めている。課題は、職員配置等を把握し、計画全体を的確に推進できる体制になっているか精査が必要である。
- ⇒ 自助・互助・共助・公助の考え方を基盤に、社会福祉協議会を中心に地域住民、関係団体、行政がそれぞれの立場における役割を確認し、連携又は交流する機会を創出していく。

1-4 高齢者福祉の充実

- ◆ 地域の高齢者活動は、年齢や心身の状況に関わらず、誰もが参加できる住民主体のグループづくりが求められているが、活動を担う世代の高齢化により活動の継続が難しくなってきている。また、複合的課題を抱える要支援者への対応には、介護保険に加え、他の福祉サービスや地域の支え合い体制が必要である。
- ⇒ 健康維持と生きがいづくりを通じて、要介護状態等となることの予防を図り、地域ケア会議や生活支援体制整備事業、認知症施策などを通じて高齢者の社会参加を促進していく。さらに、健康寿命延伸に向けて、保健事業と介護予防の一体的推進、高齢者福祉計画や第9期介護保険事業計画の実施・評価を実施していく。

- ◆ 後期高齢者医療については、団塊世代の加入に伴い被保険者が増加し、この世代について健康意識の高まりから健診受診率も向上している。
- ⇒ 更なる健診の継続的実施と受診率向上を図るため、関係機関との連携強化や、後期高齢者医療への新規加入時に合わせた周知を行い、健診受診行動を支援していく。

1-5 障がい者福祉の充実

- ◆ 家族介護用品購入助成事業や障がい者外出支援事業等を通して、地域で安心して生活が送れる一助になっているが、少子高齢・人口減少社会の中、支援が必要な障がい者は増加傾向にあり、それに伴う障がい者福祉の更なる充実が求められている。
- ⇒ 基幹相談支援センターが令和5年度から、総合相談が令和6年度から市直営となったため、運営の安定稼働に努めるとともに、他事業所への委託も模索し、障がい者相談支援体制の整備に努める。また、障がいに対する理解の促進や障がい者差別の解消に向けた啓発活動として講演会等を実施していく。

1-6 生活の安定と自立への支援

- ◆ コロナの影響は弱まったものの、物価高騰により就労自立が困難な世帯への相談が続いている、継続的支援が課題。
- ⇒ 生活困窮の深刻化を防ぐため、社会福祉協議会「まいさぽ安曇野」との連携による相談体制を維持・強化し、必要な支援を継続していく。
- ◆ 公営住宅については、建築資材や物価の高騰により事業費の増加が課題となっている。
- ⇒ 市公営住宅等長寿命化計画に基づき、必要な事業費を確保しつつ、公営住宅の維持管理と整備を計画的に進めていく。

1-7 結婚、妊娠・出産、育児支援の充実

- ◆ 結婚相談事業では1,000件以上の相談対応や婚活イベントの開催により交際成立を支援し、結婚新生活支援事業では38組に補助金を交付し、経済的不安の軽減や市内転入促進につながり、市人口の社会増に寄与した。
- ⇒ 今後もSNS活用など若年層を意識した情報発信や、市内不動産業者・企業との連携を通じて相談・イベント・補助制度の周知を強化し、より効果的な結婚支援につなげていく。
- ◆ 妊娠期から子育て期まで継続的に支援するため、相談支援や関係機関と調整し、産後ケア事業の拡充や新生児スクリーニング費用助成を進め、経済的負担の軽減と早期治療につなげた。一方で、核家族化や共働き世帯の増加等により地域のつながりが希薄化し、個々の状況に応じた切れ目のない支援が求められている。
- ⇒ 今後は、安心して妊娠・出産・子育てができる体制を整えるため、寄り添った支援と関係機関との連携強化を図る。

1-8 子どもを育む環境の充実

- ◆ 母子・子育て相談窓口や産後ケア、乳幼児健診等を通じて妊娠期から子育て期までの支援を行っているが、社会的・家庭的環境の変化により支援を必要とする母子が増加しており、個別に応じた継続的支援が課題である。
- ⇒ 安心して妊娠・出産・子育てができるよう、関係課や関係機関と連携し、切れ目ない個別支援を進めていく。
- ◆ ファミリーサポート事業や児童館・児童クラブ運営、地域子育て支援拠点事業を通じて子育て支援を行い、利用件数の増加や受け入れ拡大に対応したが、①ファミリーサポート事業では協力会員の数とサポートの質の確保、②児童館事業では事業の周知、③児童クラブでは施設整備・受入条件の見直し、④地域子育て支援拠点事業では継続運営が可能な体制強化と課題は多い。
- ⇒ こうした課題に対応していくため、①⇒養成講習会の実施、②⇒広報の強化、③⇒豊科南小・三郷小での施設整備方針の決定、利用条件の見直し、④⇒国事業への移行を視野に入れた検討等、各事業の改善を図っていく。

1-9 質の高い保育・幼児教育の実現

- ◆ あづみの自然保育ブランド事業では、「園庭ミニ田んぼ」や「園庭まるしえ」の実施、SNSによる情報発信を実施したが、より効果的な情報発信方法の研究が必要。
- ⇒ 認定こども園・幼稚園と連携し、自然保育の取組をタイムリーに発信するとともに、各種イベントでのPR活動を通じて「あづみの自然保育」を周知していきます。
- ◆ 給食業務は委託先事業者と園との連携を密にし、より安全・安心な提供ができ、食育を通じて子どもの食への関心や意欲も高まった。また、地産地消の「安曇野の日」給食は保護者からも好評。一方で、地産地消食材の利用拡大は、食材の確保が難しく検討が必要。
- ⇒ 給食の時間を大切にし、食材や調理方法を研究しながら、子どもたちが食に対する興味関心をもてるようにしていく。また、安曇野市の食材を紹介し、作る方への感謝の気持ちを大切にできるようにしていく。
- ◆ 一時預かり保育では、実施園において1名の保育士を配置しているが、希望者が多い場合、保育士確保が難しい現状。
- ⇒ 保育士確保を進め、一時預かり事業や令和8年度から導入予定の「子ども誰でも通園制度」と連携し、保護者ニーズに応える子育て支援を充実させていく。

目標2 「魅力ある産業を維持・創造するまち」～課題と今後の方向性～

施策 2-1 担い手の確保と農地の有効利用

- ◆ 「第3次安曇野市農業・農村振興基本計画」に基づき、「稼ぐ」「守る」「農と生きる」の実現のための施策を関係者と協力して展開したが、担い手の高齢化や後継者不足、農地の有効活用等の課題解消やグローバル経済の変化にも対応していくことが求められている。
- ⇒ 支援窓口の充実や家族経営・集落営農組織への支援を推進するとともに、策定した「地域計画」と「目標地図」を活用して農地の集約・集積を進め、新規就農者のスタートアップ支援や住まい・農地確保支援により、新たな担い手の確保と育成を図る。
- ◆ 集約された農地の担い手である経営体を支援するため、ほ場整備事業を導入し、令和7年度から経営体育成基盤整備事業として採択された。こうした取組等により農業従事者は減少しているものの、農地集約により耕作面積は維持されている。
- ⇒ 今後は、農地整備や用排水路等の農業インフラ整備を進め、耕作しやすい農地づくりに努めるとともに、経営体育成基盤整備事業を推進し、農地の多面的機能を維持するために地域住民の活動を支援していく。

2-2 生産振興と販売力の強化

- ◆ 国内市場縮小やコメ流通自由化等により農業は転換期を迎えており、地域の競争力強化と「選ばれる農産物」を増やしながら、地域全体の競争力を高めていくことが必要。
- ⇒ 農産物の質確保に向けた地域での基準づくり・検査、農業生産におけるGAP導入、食品加工におけるHACCP導入に向けた情報収集・発信を行うとともに、マーケティング情報の分析に基づき販路維持・拡大や有利販売先の開拓を進めていく。

2-3 森林の保全と資源の活用促進

- ◆ 森林環境譲与税を活用した森林経営管理制度により、未整備森林の間伐や松枯れ被害の伐倒駆除を行い、持続可能な森林管理を推進した。一方で、生活様式の変化による森林利用の減少や放置森林の増加により、公益的機能の損失や土砂災害リスクが高まっている。
- ⇒ 森林経営管理制度による整備を継続するとともに、里山再生計画「さとぶろ。」等、官民連携の取組を通じて、市民の関心を高めながら森林整備を推進していく。

2-4 商工業の振興

- ◆ 商工会と連携し、創業セミナーや次世代経営者育成塾を開催して若手事業者や起業希望者の育成に取り組んでいるが、新規事業者の定着や地域内外への周知、持続的経営基盤の強化が課題となっている。
- ⇒ 市内事業者への参加促進、県内外への魅力発信、事業者間連携の醸成に加え、新たな産業用地の確保に向けて地域理解を得ながら用地取得・企業誘致を進め、経営基盤の強化と地域経済の活性化を図っていく。

2-5 市内事業者の経営強化

- ◆ 令和6年度から5年間の安曇野市ものづくり振興ビジョンの数値目標は概ね達成したが、新たな産業団地整備や企業誘致、地方進出企業の関心喚起、市内企業への事業拡張支援の継続等が課題となっている。
- ⇒ 青木花見・島新田工業団地周辺で用地取得や企業誘致を官民連携で進め、市内外企業とのマッチングやサテライトオフィス誘致、補助金活用による生産施設拡張・販路開拓・展示会出展支援を通じて新たなビジネスチャンスを創出していく。また、地域課題解決型のサービス開発や実証プロジェクトの構築を支援し、市内経済の牽引と産業振興を図っていく。

2-6 多様な働き方への支援

- ◆ 就職支援では、専門相談員の配置や面接相談会、ハローワーク連携により求職者支援を実施したが、参加企業数の増加や若者への地元企業PRが必要。
- ⇒ ハローワーク松本と連携して、求職者の面接の機会を増加させていく。
- ◆ リモートワーカー育成事業では、育児・介護等で時間制約のある人が自宅で働ける仕組みを構築し、ワークライフバランス改善に寄与したが、市内企業の業務切り出しが不十分。
- ⇒ 企業との業務マッチング支援やセミナー開催による企業の業務切り出しの熟度を向上させ、多様な働き方の推進とリモートワーカー・企業双方の支援を強化していく。

2-7 地域独自の観光資源の活用

- ◆ 観光アプリやSNSを活用した情報発信により、来訪者の利便性向上と地域経済の活性化を図った。一方で、地域資源（天蚕・わさび等）の認知拡大や収穫量の安定化、滞在型観光の促進が課題となっている。
- ⇒ 天蚕製品の新商品開発や用途拡大、観光協会との連携による情報発信強化等を通じ、通過型観光から滞在型観光への転換やインバウンド需要の取り込みにつなげていく。
- ◆ 山岳観光では登山口駐車場の混雑解消のため「混雑の見える化」や通信環境整備に取り組むとともに、オンラインイベントで北アルプスの魅力を発信したが、桜の時期や夏山シーズン時は、駐車場不足による混雑が完全には解消せず、引き続き課題となっている。
- ⇒ 駐車場管理システムの活用と効果検証をしながら、事前に利用者が状況把握して判断できる状況を作れるように整え、利用者や地域の安全と利便性の向上に努めていく。

2-8 戦略的な観光プロモーション

- ◆ メタバース等のデジタル技術を活用した観光プロモーションや英語版Webページ改修、台湾での教育旅行誘致活動により、新たな年齢層やインバウンド層への認知拡大を図った。観光イベントではリピーターの参加も多く、安曇野の魅力を楽しむ工夫で人気が定着している。一方、立ち寄り型・通過型の来訪者が多く、滞在型観光への転換が課題。
- ⇒ 地域イベントや旬の情報発信を通じた再来訪促進、関係機関との連携による観光資源の掘り起こし・磨き上げ、デジタル活用による情報発信強化、イベント運営参加者の満足向上を進め、交流人口拡大と地域経済活性化につなげていく。

2-9 アウトドア・スポーツを核としたまちづくり

- ◆ 令和6年6月に「かわまちづくり協議会」を設立し、同年8月には国土交通省「かわまちづくり支援制度」の登録認定を受けた。前川の河川改修に伴う実施設計や公園基本設計も発注したが、法的制限や国・県との連携、周辺住民の理解醸成、拠点運営体制の整備が課題。
- ⇒ 法的制限内で国・県と協議しながら計画を進め、ソフト事業を踏まえたセンターハウスの機能検討やイベント開催による地域の機運醸成、周辺施設との連携を推進していく。
- ◆ 自転車活用推進事業では、新規イベントや教室開催、ヘルメット購入補助、サイクルスタンド増設等により自転車利用促進を図った。また、サイクリングコース利用実態調査を実施した。一方で、市民や来訪者に向けた利用機会の提供と利便性向上の仕組みづくりが課題である。
- ⇒ サイクリングコース利用実態調査の結果を基に、今後の活用方法やインフラ整備の検証をしていく。
- ◆ マウンテンバイクコース管理では、丁寧なコース整備や接遇で利用者とリピーターを確保した。課題は、知名度向上のためのイベントや教室等の事業展開、レンタルバイク維持費の増加となっている。
- ⇒ 今後は、令和8年に全日本自転車競技選手権大会を開催する。準備として実行委員会設立やコース整備、指定管理料・利用料・レンタル料の見直しを進めていく。
- ◆ ハーフマラソン事業は、地域住民の「おもてなし」により人気を維持しているが、人件費や物価高騰による運営費増加が課題。
- ⇒ 今後は、他イベントや収支状況を踏まえたエントリー料の見直しを検討していく。

目標3 「安全で安心に暮らせるまち」～課題と今後の方向性～

施策 3-1 防災・減災対策の推進

- ◆ 住宅の耐震診断や改修・除却工事への補助を通じ、耐震化促進と市民の防災意識向上を図った。しかし、旧耐震基準住宅の多くが高齢者所有であり、改修に必要な費用負担から工事に踏み切れないケースが見受けられる。
- ⇒ 耐震化の重要性や補助金・低コスト工法の情報をDM等で発信し、耐震改修の実施促進に取り組んでいく。
- ◆ 宿泊事業者等と協定を締結し、災害時における多様な避難場所を確保した。また、防災行政無線等の維持管理、消防団の統合詰所建設等により、防災体制・機能の維持・充実を図った。一方、既存設備の老朽化や将来的な不具合を考慮した計画的な設備等の更新や配備が必要。
- ⇒ 設備更新や新たな通信手段の導入を計画的に検討するとともに、市民への出前講座や情報発信を通じて防災意識向上と自主避難計画の策定を促進していく。また、各分野での協定締結を進め、災害時の連携・支援体制を強化していく。

3-2 地域の防災活動の強化

- ◆ 災害時の支援に向けた見守り活動や、災害時避難行動要支援者名簿・住民支え合いマップの活用は重要性が増しているが、名簿掲載の同意率の低下が課題。
- ⇒ 地域の支え合いを中心に名簿活用を継続し、市民や区長会等への説明を強化するとともに、65歳となった新たな名簿掲載者への勧奨を継続していく。また、平常時からの見守り体制の強化、社会福祉協議会との協働による支え合いマップ作成、さらに要支援者個々の避難行動に対応した個別避難計画の検討を進め、災害への備えを強化していく。
- ◆ 出前講座や防災講演会を通じた広報により、防災活動支援補助金の利用件数・利用額は増加した。また、未策定であった自主防災組織の地区防災計画も、補助金制度の活用とともに説明を実施した結果、策定率が向上した。しかし、防災訓練の実施は自主防災組織間で温度差があり、さらなる自主防災意識の向上が課題となっている。
- ⇒ 各種機会を捉えた積極的な働きかけを行い、市民の防災意識を高めることで地区防災訓練の実施率向上を図っていく。

3-3 砂防・治水事業の推進

- ◆ 内水対策として排水路設置や普通河川の護岸改修工事を実施した。施工にあたっては湧水対策や仮締切などの仮設工法の検討が必要。
- ⇒ 限られた予算の中で経済性と安全性に優れた工法を選定し、事業を計画的に進めていく。
- ◆ 管理河川の河床整備、除草、支障木伐採などにより良好な河川環境を維持した。しかし、近年の異常気象による水害の激甚化・頻発化が懸念される。
- ⇒ 予防保全を含めた総合的な維持管理を継続し、災害に備えていく。

3-4 防犯・交通安全の推進

- ◆ 認定こども園や幼稚園での交通安全教室や登校時の啓発活動を通じ、児童・生徒の交通安全意識を向上させた。また、自転車用ヘルメット購入補助により着用促進を図っている。しかし、高齢者の交通事故が増加傾向にあり、自転車用ヘルメットの着用率も低調。
- ⇒ 高齢者向け交通安全教室や地域訪問型の啓発活動、関係機関との連携による街頭指導を強化し、事故防止と着用率向上を進めていく。
- ◆ 区やPTAから寄せられる交通安全施設の要望に対し、緊急性や危険性を判断しながら道路反射鏡や標識を整備した。しかし、要望件数が多く、全てに迅速に対応することは困難。
- ⇒ 優先順位を適切に判断し、効果的な安全施設整備を進めていく。
- ◆ 通学路の合同点検の結果、即対応可能な内容については整備を実施した。一方で、対外関係との調整が必要等、すぐに対応できない事例もあった。
- ⇒ 要望や点検結果に基づき、緊急性や必要性を判断しつつ、計画的に整備を進めていく。

3-5 消費者保護の推進

- ◆ 弁護士・司法書士による無料法律相談や消費生活相談員の助言・斡旋を実施した。特に消費生活相談員の助言等により、約7,500万円の被害が救済された。HPや啓発物品配布による情報提供で広く周知をしているが、特殊詐欺や悪質商法の被害が増加しているため、関係機関と連携した啓発活動や注意喚起、相談員のスキル向上が必要。
- ⇒ 出前講座や高齢者宅訪問、被害防止対策機器の補助金交付等により、被害減少につなげる。

目標4 「自然と暮らしやすさが調和するまち」～課題と今後の方向性～

施策 4-1 自然環境の保全

- ◆ 地下水位の通年観測や地下水採取量の報告書の受領等により、地下水環境の「保全」と「利用」のバランスである水収支の状況を把握した。しかし、バランスを改善するための人為的な地下水涵養が水利権等の制約で困難なことが多い。
- ⇒ 水田を活用した涵養施策や適正な揚水・節水の啓発を通じて地下水の保全と利用のバランスを改善していく。
- ◆ 出前授業等の実施、環境フェアや自然観察会の開催等により、地下水や環境への理解促進を図った。環境フェアや自然観察会の運営体制や内容の工夫が必要な点が課題。
- ⇒ 工業会・商工会・教育機関と連携し、子どもたちが体験できる環境プログラムの充実を進めていく。

4-2 循環型社会の実現

- ◆ 市民や事業所による一斉清掃により地域環境の美化を推進したが、参加者数や回収量は減少傾向にある。また、各リサイクルセンターの利用者が増える中、資源物等の排出について利用者へのきめ細かな指導が必要だが、高齢化等により指導員が減少している。
- ⇒ 受入指導員の減少については、シルバー人材センターと調整を行い、対応できる体制を整えたい。
- ◆ 下水道未接続家庭から排出される生活雑排水汚水・汚泥は、生活雑排水浄化処理場で浄化処理し、下水道へ放流しているが、施設の老朽化により毎年予期しない修繕が発生している。
- ⇒ 生活雑排水処理施設の利用者に対しては、下水道への接続を促していく。

4-3 脱炭素社会の実現

- ◆ 市内温室効果ガス排出量削減のため、市有施設では着実な削減が進んでいるものの、市民・事業者との危機意識共有や取組の推進が必要。
- ⇒ 市職員ゼロカーボン行動計画に基づき、市自らが率先して行動するとともに、太陽光発電や蓄電池、太陽熱利用システムの補助拡充や電気自動車購入補助の創設等、市民・事業者への支援を強化していく。また、国交付金を活用した公共施設や民間事業所への再生可能エネルギー導入や、バイオマス燃料供給も推進していく。

4-4 自然と発展が織りなすまちづくり

- ◆ 条例に基づき、開発事業に対して、制度を適正に運用することで秩序ある土地利用を確保するとともに、都市計画基礎調査や市民アンケートを基に土地利用制度の見直し検討を進めた。少子高齢化や人口減少の中で多様化する土地利用や空き家・空き地対策が課題。
- ⇒ 「空き家利活用の推進」「集落の住環境保全と産業発展の両立」「防災まちづくり」を主軸に制度改定を進め、暮らしやすさと産業発展のバランスが取れたまちづくりを推進する。

4-5 暮らしと調和する景観の保全

- ◆ 景観条例等に基づく、届出や屋外広告物許可等の制度を適切に運用し、安曇野らしい景観の保全に取り組んだ。一方で、手続き未実施事業者もおり、適切な対応が必要。
- ⇒ 定期パトロールを継続し、不適格広告物の対応に取り組むとともに、更なる制度の周知を進めていく。
- ◆ 景観育成団体への補助金交付により協定活動を支援したが、団体構成員の担い手不足により活動継続が困難となっている団体も存在する。
- ⇒ 団体間情報共有や他市事例紹介による支援を実施していく。

4-6 道路整備の推進

- ◆ 安曇野市道路整備推進計画に基づき、交付金や起債を活用して幹線道路の拡幅改良や歩道設置等の安全施設整備を実施した。
生活道路は地域要望に応じ、緊急性や必要性を判断して整備した。資材・労務費高騰の中で、限られた予算を有効活用することが必要。
- ⇒ 経済性や省力化に優れた工法の選定によるコスト縮減と、整備効果を見極めた事業個所の選定を進めていく。
- ◆ 橋梁・舗装修繕は、優先度を考慮し交付金の内示率に合わせて実施したが、舗装修繕は、老朽化が進む道路ストックに対し、維持補修が追いつかない状況。また、橋梁修繕は、十分な交付金配当が得られず、計画どおりの事業進捗は図れていない。
- ⇒ 多種多様な事象に対し、緊急性・必要性を判断しながら、効果的な維持修繕を進めていく。
- ◆ 除雪対策は委託や直営作業で実施したが、老朽化した車両・機械の更新のための財源確保や受託者の高齢化・担い手不足が課題となっている。
- ⇒ 補助金活用による計画的な機材更新や、新規受託者の公募等により担い手を確保していく。

4-7 上下水道の安定経営

- ◆ 水道事業では、安曇野市水道ビジョンに沿って施設整備を進め、安定給水を確保した。下水道事業では、経営戦略に基づき事業を実施し、また、投資・財政計画の見直しも行った。各施設の更新・長寿命化については、アセットマネジメント、ストックマネジメントに基づき、計画的かつ効率的に進める必要がある。
- ⇒ 主要管路の耐震化では国庫補助金活用も検討していく。下水道については、統廃合事業を令和8年度供用開始を目標に管渠整備等を実施していく。

4-8 持続可能な公共交通の形成

- ◆ 令和6年4月からデマンド交通の土日祝日運行を開始し、定時定路線では利用者数の最高記録を更新した。観光アプリに経路検索・予約機能を搭載し、キャッシュレス決済導入も進めており、令和7年4月から利用可能。一方で、特定時間帯に予約が集中したり、慢性的な運転手不足により需要に十分応えられない状況にある。

⇒ 効率的な運行やシステム改修の検討を進めるとともに、地域公共交通協議会の事業として路線バス「三股線」の実証運行も予定しており、利便性向上と持続可能な運行体制の確立を図っていく。

4-9 良質な住環境の整備

- ◆ 豊科駅前ほか公衆便所について、計画的な維持管理・修繕を実施し、利便性向上と周辺環境保全に努めた。一方で、施設の老朽化や物価高騰が管理・整備費用に影響している。
- ⇒ 公衆便所の利用者が気持ちよく利用できるよう、引き続き適正管理に努めると共に、施設の長寿命化を検討していく。
- ◆ 臭気に関しては、規制値超過は少なく改善傾向にあり、苦情件数も少ない件数で比較的安定している。
- ⇒ 臭気苦情がある畜産事業者への改善指導を継続し、関係機関と連携した技術支援・情報提供を行っていく。
- ◆ 市営霊園について、計画的な維持管理・修繕を実施した。合葬式墳墓の利用率は上昇傾向にあり、需要に十分応えられていない状況にある。
- ⇒ 合葬式墳墓については、令和7年度に実施設計、令和8年度に2棟目建設を計画している。これに合わせて、管理料・使用料のあり方についても研究していく。
- ◆ 公園施設は、計画的な維持補修・更新を実施し、市民に安全・安心な公園利用を提供している。また、市民参加型の公園管理を目指す公園愛護会制度を運用しているが、担い手不足により参加団体の維持が困難となっている。
- ⇒ 引き続き計画的な公園施設の修繕・更新を継続するとともに、公園愛護会制度への参加促進や活動しやすい制度への改善を検討していく。
- ◆ 「緑の基本計画」に基づき、緑化コンテストや講座の開催、市民の相談窓口の開設等を行い、緑化意識の向上を図っている。
- ⇒ 沿道緑化の推進、緑化イベントの定着を通じて緑化施策を推進し、さらに計画改定から約5年を迎えることから「緑の基本計画」の見直しも進める。

4-10 移住・定住の推進

- ◆ 明科地域の活性化に向け、地域おこし協力隊2名を配置し、既存団体との交流や地域活動への参加を進めている。しかし、既存団体は高齢化が進み、活動の持続が困難な状況であり、各団体間の連携も十分ではない。
- ⇒ 地域おこし協力隊が中心となって団体間の横の連携を促進し、地域イベント等を通じて明科地域の活性化を図っていく。
- ◆ 移住促進について、個別相談会や県・民間団体主催のイベント等を通じ、転入超過467人、市のサポートによる移住者112人（前年度比21人増）と一定の成果があった。若年層や子育て世帯の移住を促すために各種情報発信しているが、ターゲット層への認知度向上が課題。

- ⇒ 首都圏等でのイベント参加や移住ポータルサイトのリニューアルにより情報発信を強化し、先輩移住者との交流や相談機会の整備を進めることで、若年層の地元回帰や移住者の不安解消を図っていく。

4-11 空き家対策の推進

- ◆ 「特定空家」2件が解消され、新たに将来的に保安・衛生上の影響が懸念される「管理不全空家」4件を認定した。
明科地域を中心に空家利活用を進めるため、地域おこし協力隊員を1名採用したほか、関係団体との包括連携協定締結や市民向け啓発講演会の実施、民間団体と協働した空家見学会やチラシ配布等により利活用促進を図っている。
課題としては、空家所有者や高齢単身世帯への意識醸成、流通物件とのミスマッチ、利活用可能物件の掘り起こし停滞があげられる。
- ⇒ 今後は「財産管理人」制度や「空家等管理活用支援法人」の活用による官民連携体制構築、相談会等の開催、HP・SNSを活用した情報発信強化、空家戸数実態調査に基づく効率的な啓発、協力隊のイベント企画による物件掘り起こしと交流・関係人口創出を進めていく。

目標5 「学び合い 人と文化を育むまち」～課題と今後の方向性～

施策 5-1 学校教育の充実

- ◆ 学校支援員や教育センター運営では、障がい児支援や医療的ケア、不登校児支援など個々のニーズに応じた加配配置等を行い、きめ細やかな教育環境を整備した。今後も配慮を要する児童生徒の増加が見込まれるため、支援員の人数を確保する必要があるが、誰でもよいというわけにいかず、人選に苦慮する面がある。
- ◆ ICT 教育では小中学生一人一台端末を活用した授業を実施した。しかし、ICT 活用における教職員の技量差があることが課題。
- ⇒ いずれも、教職員からの相談に対応できる体制を維持、充実した支援体制を整備し、第 1 次教育振興基本計画に基づく活力と魅力ある学校づくりを推進していく。
- ◆ 栄養士による教室訪問などで食育を推進し、地産地消にも取り組んできた。しかし、堀金学校給食センターの大規模改修による稼働日数の減少等で、令和 6 年度の地場産品使用率自体は前年度より低下した。
- ⇒ 給食の材料や献立を通じて、児童・生徒等に健全な食生活の大切さ、食文化等といった食育を積極的に推進し、給食を教育の一環としてとらえる安曇野型食育を構築していく。

5-2 家庭・地域との連携の推進

- ◆ 学校と地域の連携に関する認知や充実は徐々に進んでいるものの、地域住民への周知は十分ではなく、事業内容を理解してもらうためには個別説明が必要な状況である。
- ⇒ 地域コーディネーターや学校運営協議会委員への研修、各学校のだより等を活用したコミュニティスクール事業の周知を進め、地域への浸透を図っていく。
- ◆ 放課後子ども教室は、学校やスタッフの協力により運営できており、登録児童数は増加傾向にあるが、スタッフの確保が課題である。
- ⇒ 学校やスタッフとの情報共有・意見交換を継続し、大学生の協力も含めた体制強化を検討しつつ、活動の継続を図っていく。

5-3 生涯を通じた学びの創出

- ◆ R6 年度の生涯学習講座参加者は 17,150 人と学習機会は充実しているが、関係課や団体との情報発信強化や部局間連携が課題である。
- ⇒ 全市民が参加しやすい体制（電子申請受付・アンケート実施、大規模講座対応、プレスリリース等の標準化、ユニバーサル対応）を検討し、学びの場の利便性・満足度向上を図る。また、クラウド型生涯学習情報システム導入に向けた検討も進める。
- ◆ 図書館利用者数・貸出冊数はコロナ禍の影響から回復途上であり、読書習慣の多様化やデジタル化も影響している。利用者ニーズを把握し、時代に合ったサービスやデジタル対応を進めることで、新たな市民層も含め利用促進を図る必要がある。

- ⇒ 中央図書館では古くなった図書資料等の計画的な更新を行い、学習拠点としての機能を強化するほか、災害時や高齢者への対応、協働電子図書館事業の推進を通じて、市民に開かれた図書館づくりを進める。

5-4 スポーツを楽しむ環境の充実

- ◆ 令和10年に長野県で開催される国民スポーツ大会について、市実行委員会を設立し、大会スケジュールや委員選出方法を確認、競技施設整備方針も競技連盟等と協議のうえ決定した。
- ⇒ 市民認知度向上や地域・関係団体との連携強化、競技会場の床補修工事に向けた設計や広報活動を進める必要がある。
- ◆ スポーツ教室等については、子どもから大人まで幅広い世代が参加できる教室を開催し、参加者アンケートの結果は概ね満足の回答が多数。
- ⇒ 健康増進や仲間づくりを目的に、ニーズに応じた新たな教室やアーバンスポーツフェス、ウォータースポーツ体験会、トレイルランニング、スケートボード教室など多様なスポーツ体験の機会を提供し、スポーツ離れの改善や生涯スポーツの推進を図る。

5-5 文化・芸術活動の推進

- ◆ 小説「安曇野」の復刊について、クラウドファンディングで目標を上回る寄附があり、復刊部数を当初の予定から300セット増刷した。復刊記念お披露目会には約300人が参加したが、若い世代への認知度は低い状況である。
- ⇒若い世代への認知度向上を図るとともに、大河ドラマ化に向けた広報活動を継続する。
- ◆ 東京藝術大学とのアーティストインレジデンスでは、アーティスト3人を迎える・小・高等学校との連携を前年以上に拡大した。京都芸術大学や多摩美術大学との連携も継続した。
- ⇒今後は、滞在制作拠点として整備した鐘の鳴る丘集会所を活用して、芸術家や学生の市内滞在制作や市民交流の機会を創出するとともに、拠点の運営方法を確立していく。

5-6 歴史・文化遺産の継承

- ◆ 安曇野の文化財を後世に伝えるため、文化財保存活用地域計画の作成に着手しており、令和7年度の文化庁認定を目指している。また、新市立博物館構想の見直しに向け、建設方針検討委員会を組織して検討を進めている。
- ⇒今後は、市内の指定・未指定を問わず文化財の保存・活用を推進するとともに、新市立博物館の建設や既存施設の統廃合、適切な運営体制・事業内容の検討を進める必要がある。

目標6 「みんなでともにつくるまち」～課題と今後の方向性～

施策 6-1 協働によるまちづくり

- ◆ 広報広聴事業では、編集ソフトを活用した内製化方式により、伝わる広報紙づくりと事務効率化を実現した。インターネット広報では、動画版・ニュース版の配信やLINE プッシュ通知を開始し、多様な市民ニーズに対応した情報発信を行った。広報ラジオ番組では、市民向けにタイムリーな市政情報を提供している。
- ⇒ 各媒体の特性を生かし、市民が関心を持つ情報を的確に届ける工夫を継続的に検討するとともに、懇談会「飛耳長目」を通じて広聴の充実にも努める必要がある。
- ◆ 協働のまちづくり推進事業では、市民主体の交流会やSNS発信により、市民サポートセンターに登録する市民活動団体の増加を促し、補助金交付で新規事業への支援も行った。一方で、多世代が参画できる仕組みや担い手の育成、市民活動への関心拡大が課題である。
- ⇒ 市民活動の情報を収集・発信するとともに、団体と市民をつなぐコーディネートの拠点を整備し、協働のまちづくりを進めていく。
- ◆ 区等地域力向上事業では、区長会と連携して地域課題の解決や区長負担軽減に取り組み、相互理解を深めたが、区役員のなり手不足、未加入世帯の増加等が課題である。
- ⇒ 区加入促進に向け転入者に対しパンフレットでの説明等による情報発信を積極的に行うとともに、持続可能な区の運営を図るため、市区長会事務局の自立を支援していく。

6-2 共生社会の実現

- ◆ 「安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり計画」に基づき、性別による役割分担意識の解消や男性育児休業推進、外国籍市民への理解促進、ユニバーサルデザインの普及を目的とした研修やイベントを実施した。
- ⇒ 今後は、共生社会づくりに向けた意識の醸成のためのイベント集客や円滑な運営、関係団体との連携といった課題を解決しながら、市民が共生社会を自分事として捉え、多様性への理解と相互理解を深める機会の創出を進めていく。
- ◆ 人権教育推進委員や指導員を中心に、人権教育事業を推進し、地区学習会約1,500人、地域学習会約300人が参加した。地区学習会の参加者は増加したものの、開催されなかった地区もあるのが課題。
- ⇒ 人権だよりや学社連携事業、地域公民館での展示等により人権意識を高めるとともに、推進委員や指導員への研修促進や地区学習会開催支援を行い、人権教育の充実を図る。

6-3 交流活動の推進

- ◆ R6年度は恒例事業に加え、若年層対象事業や新団体の受入れで交流の幅を広げ、江戸川区共催の「穂高荘 燕岳登山ツアー」では参加者同士が自主的に交流を継続する等、成果が見られた。一方で、趣味や余暇の多様化により若年層の参加は依然少ない傾向にある。

- ⇒ 福岡市東区との市民交流では平日を避けた日程にすることで若年層の参加が徐々に増加しており、SNS 等を活用した若者世代の交流促進策を工夫し、幅広い世代・分野の参加につなげていく。
- ◆ 農家民宿推進事業について、関係者と協働で実施した。市民や交流人口の農業理解を深めるためにも都市農村交流事業を推進する必要があるが、合同で実施している自治体が受入れを縮小しており、受入れ可能数が減少していることが課題。
- ⇒ 農家民宿の受入れ体制を充実するとともに多様な農業体験の場を確保していく。

6-4 デジタル技術を活用した行政変革

- ◆ マイナンバーカードによる公的個人認証や電子決済機能の導入により、来庁せずに各種申請や手数料納付が可能となり、スマートフォンアプリでの手続きも進展している。
- ⇒ 書類への押印が残る部分は今後省略を進め、行政手続きのオンライン化と市民利便性向上に向けたデジタル技術活用をさらに推進する必要がある。
- ◆ 上述のとおり、スマートフォンアプリによる来庁不要の手続きも可能となった一方、カード取得が困難な市民への対応や、電子証明書等の更新時には来庁者増加が見込まれ、窓口混雑への対策が課題である。
- ⇒ 今後はカード保有率向上や窓口受付システムの有効活用を進め、デジタルサービスの利用促進と窓口の滞留抑止を図っていく。

6-5 市民の視点に立った行財政運営

- ◆ ふるさと納税について、令和6年度の寄附額は約 658,000 千円で、前年度を上回り財政計画目標を達成した。返附件数も過去最高の約 9,400 件となった。一方、自治体間競争や返礼品に関する制度変更の可能性があるため、魅力的な返礼品の発掘・拡充や効果的な PR 広告の工夫が課題である。
- ⇒ 地域産業の特産品やサービスを活用し、国のルールを守りつつ電化製品や農産物など多様な返礼品を充実させ、リピーター確保と自主財源を確保していく。
- ◆ 実質公債費比率は 3 か年平均で 8.3%、単年度では 8.4% と改善しており、早期健全化基準（25%）や財政再生基準（35%）を大幅に下回って横ばいで推移している。
- ⇒ 今後も財政計画に沿った事業選択や交付税算入に有利な起債の活用により、公債費負担の縮減と年度間均衡を図り、償還額の急増を避けつつ健全財政を維持していく。
- ◆ 市税については、持続可能な行財政運営のため、市税の収納率 99% 以上を維持している。
- ⇒ 一方で、滞納繰越となってしまった市税は収納が難しくなるため、滞納繰越を発生させないよう現状の初期未納者に対する早期の自主納付の勧奨の取り組みを継続していく。

令和6年度 市民意識調査について

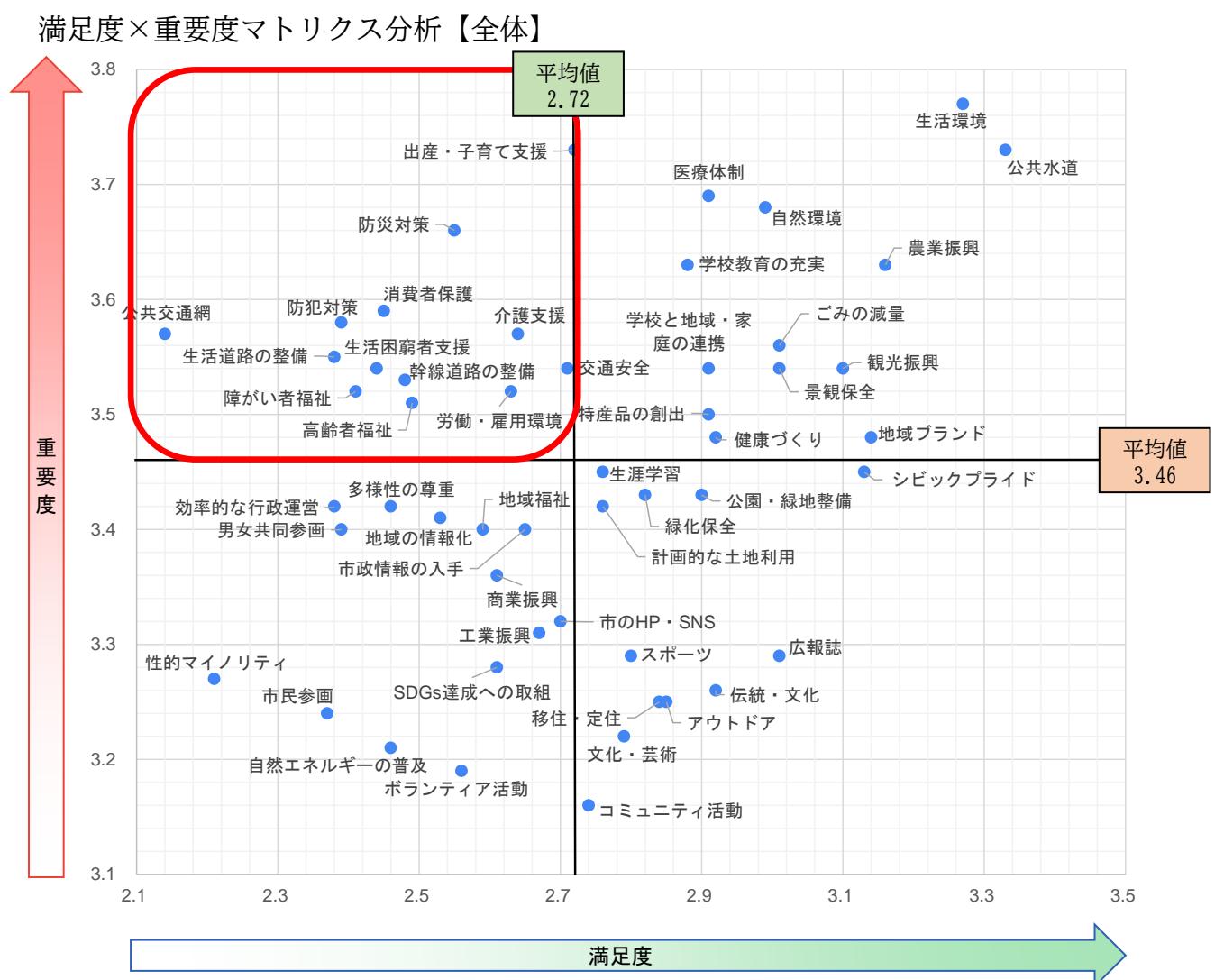
市民意識調査 満足度と重要度の状況

マトリクス分析

市民意識調査における各分野に対する満足度・重要度を集計した結果、以下の分野の満足度が低く、重要度が高いという結果になりました。

① 【満足度：低】かつ【重要度：高】の分野（全体）

- ・障がい者福祉
- ・高齢者福祉
- ・介護支援
- ・生活困窮者支援
- ・労働・雇用環境
- ・防災対策
- ・交通安全【←新規】
- ・防犯対策
- ・消費者保護
- ・出産・子育て支援
- ・幹線道路の整備
- ・生活道路の整備
- ・公共交通網



前記①の中では、「幹線道路の整備」、「生活道路の整備」の分野は2年連続で満足度が低下しており、現状の課題を把握した対策が特に求められます。

また、前記①以外にも以下②の分野は、年代によっては満足度が低く、重要度が高いという結果になりました。

② 【満足度：低】かつ【重要度：高】の分野（年代別）

- ・地域福祉（60代）
- ・男女共同参画（20代以下）
- ・多様性の尊重（30代）
- ・学校教育の充実（30代）
- ・学校と地域・家庭の連携（30代）
- ・生涯学習（30代）
- ・伝統・文化（20代以下）
- ・商業振興（20代以下）
- ・地域の情報化（20代以下、50代）
- ・効率的な行政運営（20代以下、30代）
- ・市政情報の入手（20代以下、30代）

上記②の中で、「地域の情報化」、「市政情報の入手」の施策については、2年連続で満足度が向上しています。

反対に、「商業振興」の施策については、2年連続で満足度が低下しています。

上記①、②の分野は、市民満足度の向上を目指した取組が特に求められることを念頭に置き、施策の展開を検討していく必要があります。

【満足度：低】かつ【重要度：高】の分野に関する市民意見

前記①、②の分野の中に関する市民の意見を以下に記載しています。（市民意識調査の自由記載欄から抜粋。）

特に意見が多かった分野は、「出産・子育て支援」、「学校教育の充実」、「交通安全」、「幹線道路の整備、生活道路の整備」、「公共交通網」、「商業振興」、「地域の情報化、効率的な行政運営、市政情報の入手」となっています。

地域福祉(60代)

- ◆ 高齢の母と同居していて、何かケアマネさん等に相談しても、デイサービスを利用することしかアドバイスしてくれない（デイが苦手な老人もいる）。そのために地域（区の社協の役員さんとか隣組のコミュニケーション等）でできることも考えていただきたい。
市の中でもいろいろな自治会があると思うが、私のところは高い区費だけ徴収されて、「皆で支え合い助け合う」という印象は全くありません。良い関係づくりが築けているところの成功例を、区長さん同士が共有して、形だけないものにしてほしい。

障がい者福祉

- ◆ 現在就職活動中の身だが精神・身体障がい者に対する就職支援対策などを積極的に行ってほしい。現在市外にある就労移行支援団体に通所をしているが、市内でそういった取り組みが増えれば良いのにと日々思っている。
- ◆ 障がいがあり働けない所得のない者に対しての入院時の制度を、改善していただきたい。
- ◆ 身体障がい者、特に視覚障がい者等への支援が少ない。高齢者福祉は十分なのに。もし自分だったらという思い、考えが昔の「道徳」から学べることが少なくなったからでしょうか。
- ◆ 障がい者が就職しても雇用先での理解は全く得られない。雇用募集が少なすぎる。役所での手続き等、複雑すぎて理解できない。受けられるはずの制度も質問しなければ案内もされない。障がい者の生きづらさはなくならないまま。

高齢者福祉、介護支援

- ◆ 義母の介護をして改めて介護職員の大変さを知りました。給料も安いと聞きます。もっと考えてほしいです。市としても高齢者が自由に行って運動したり、ゲームをしたり歌をうたつたりできるような場所があったら健康寿命が延びると思います。
- ◆ 老人ホームが少ない。子どもが親の介護している場合、自宅での介護が難しくなっても、なかなか施設に入れない。親を施設に入れた場合も入所費用が高額で、子どもは年金暮らし、親の年金も少なく、子どもの負担が大きく生活が大変である。
- ◆ 老人施設になかなか入所できないので改善してほしい。
- ◆ 子育て支援だけでなく、高齢者にも充実した支援、対策をしてほしい（年金生活者）。公共入浴施設などの無料券を配布してほしい。

生活困窮者支援

- ◆ 高齢者及び生活困窮者に補助、給付を増やしていただきたい。
- ◆ ひとり親家庭など、本当に困っている人たちのサポートが足りない。生活に追われ相談にも行けないので、お役所仕事でなく、しっかりサポートしてください。
- ◆ 母子家庭への支援の充実を希望します。
- ◆ 会社の給料が減ってしまって生活にすごく困っていて、相談に行っても全然協力的ではなかった。生活が苦しいのに話しても意味なかった。
給付金が欲しいです。アパートの家賃が高くて生活が困っているので、1000円くらいからでいいので補助金下さい。水道料金も高いので下げてほしいです。生活の経済的補助が欲しいので、補助金出してほしいです。(本当に困っているので補助金出してください)

出産・子育て支援

- ◆ 夏に子どもが遊べる場所が必要。
- ◆ 子どもが室内で遊べる場所を増やしてほしい。温暖化により夏場など公園で遊べません。他市町村には魅力的な子どもの室内遊び場があります。
- ◆ 子どもの遊べる場所や施設を増やしてほしい。
- ◆ 公園の遊具を増やしたり、日曜日でも行ける児童館などを作ってほしい。
- ◆ 児童館と児童センター、両方運営してほしい。
- ◆ 豊科南小の児童クラブの6年生までの利用について、早期の実現をできるようにしてほしい。学校の空き教室利用など。児童クラブを利用できない地域に住んでいて、不公平を感じる。
- ◆ 働く親の子どもたちを児童館に預けるにあたって、祖父母がいるとその書類も提出しなければならず、働く親の気持ちを考えてほしい。安心して預けられる環境を整えてほしい。
- ◆ 子どもが小さいので、よく公園や児童館を利用する。公園は、駐車場が付いている所が多く、休みの日に車で家から離れた公園にも遊びに行けるのでとても助かっている。市内には児童館、図書館も多く、子ども用トイレがあったり、授乳室があったり、子どもを育てるのにつぐ最適な環境だと思う。
- ◆ 子どもが高校、大学と進学すると、安曇野から通える場所に学べる場（特に大学）が少ないので、将来的に子どもを一人暮らしさせるか、家族で県外に出るか、となり、市内に家を建てて住み続けることに迷ってしまう。
- ◆ 就園前の子どもを育てている親たちが、気軽に子どもを預けられる場所がもっとあればよい。
- ◆ 自分の娘が子どもを保育園に預けるのになかなか入れず、仕事に復帰することができず困っている。もっとすんなり子どもを預かっていただけるよう、体制を整えてほしい。
- ◆ きょうだい関係のある家庭は、同じ園に入園させてほしい。職場が市内で近ければいいが、市外まで通勤で朝も早いのに、2園へ送るのがとても大変。特に未満児で仕事復帰を控えている人には、かなりの負担。
- ◆ 保育園在園中に妊娠出産した場合、職場復帰が半年後に控えていても保育園を一回退所して再度入園手続をしないといけないと聞いたが、そこの部分の対象事項の緩和をしてほしい。
- ◆ 未満児の保育料高いので、それが理由で松本に引っ越します。

- ◆ 子の医療受給負担の無料化は大変有り難いが、不必要的受診による無駄遣いの防止策はあるのか。それよりも、未満児の保育料の更なる軽減に力を入れてほしい。サポートのない核家族での子育てが充実できない。十分な仕事時間を割けず、保育料が高く、仕事を辞めざるを得なくなってしまう。
- ◆ 給食を無料にしてほしい。
- ◆ 私立高校授業料無償化の公立高校潰しの本末転倒の政策もあるが、安曇野市では給食の無償化を是非実現していただきたい。
- ◆ 給食費（学校）が無料になるのは良いことだと思うが、内容を充実してほしい。
- ◆ 学校給食の無償化。学校用品の購入に補助金を（クーポン等）出してほしい。
- ◆ 合計特殊出生率がどんどん減っている。子どもが育ちやすいような補助金を考えてほしい。
- ◆ 子育て支援額を増やしてもらえたうれしい。子育て支援は未来への投資であり何よりも重視すべき政策だと考える。
- ◆ 子育て支援。物価高により、赤ちゃんにミルクを薄めて飲ませる報道がある。子ども一人に對して2年分の粉ミルクを現物支給、又は現金給付（紙おむつも同様に）。将来を担う子どもたちを支援することで社会へと貢献する。
- ◆ ごみ袋の値段が年々高くなっている気がする。子育て世帯にとってはおむつ等でごみの量が多いことがある。子どもがある程度の年齢に達するまでは何割か安い値段での販売等の検討をお願いしたい。
- ◆ 子どもへの支援をもうちょっと手厚くしてほしい。出産したらごみ袋をもらえるのはうれしいが、ほかにもあれば良いなと思う。
- ◆ 安曇野は住みやすくて好きですが、年金世帯やお年寄りへの支援ばかりに力が入っていて、子育て世帯への支援が足りていない。生活費が足りないのは、お年寄りではなく、子育て世帯や若い世帯だと思う。
- ◆ 母子の育成への切れ目ない支援が少し遅れている気がします。
- ◆ 自然保育園ステキで移住したが、農薬や食べ物の取り組みがなされていないように感じる。
- ◆ 私立の幼稚園もあった方がいい。移住者のお母さん方皆さん物足りないと言われています。
- ◆ 子どもが自然の中で自由に遊べる環境づくりを望む。
- ◆ 子育て支援の充実をお願いしたい。物価高が続く中、働きながら子どもを育てていくことはとても大変。また、難病を抱える子、その親への支援を充実させてほしい。重度の難病は支援され、発達障がいの子どもたちへの支援もされるが、重度でない難病指定されている家庭への支援は全くありません。
- ◆ 共働きでの子育て支援の充実。PTAでの仕事量減らす又は廃止など。
- ◆ 働くママがほとんどなので、ただ負担になるだけなので保育園のPTAもやめてほしい。
- ◆ 子育て支援の環境が変わりつつあるが、子のいる共働き世帯の母方の労働時間帯や急な用件による休みの取得など、法や条例で整備することが難しい事案などを、各企業と課題としてもう一步踏み込んだ取り組みを進め、心労等の負担軽減にも配慮した子育てしやすい安曇野市づくりを構築してほしい。
- ◆ 子育てについて、結婚、妊娠する前の段階から必要では？

学校教育の充実(30代)

- ◆ 学校環境にもっと目を向けてほしい。学業内容、部活動、PTA、ゲーム、通学、健康（交通事故）etc.
- ◆ 教育のあり方（学業内容）。子どもが自主性、心豊かで人間味のある人に育って社会に出る。
- ◆ 小中学校の給食費の無料化を（憲法で義務教育は無償とある。給食も教育の一環）。
- ◆ 現在の小中学校の教員増を図り、授業の充実を進めてほしい。現在の学校教育では、授業がわからず苦しい学校生活を送っている小中学生が数多くいる。遅れのある児童生徒を回復する専門教員を置き、全員が授業についていける環境をつくってほしい。競争させて学力を伸ばす方法を取る限り、いじめは学校現場からなくなる。
- ◆ 子どもが進学するにつれてお金がかかるので、小・中学校はなるべく費用を抑えるようにお願いします。学校の一クラス30人未満になるようにしてほしい。
- ◆ 小学校の設備の古さが不満。小学校の先生の人数の少なさや、質に問題を感じる。学力の低下を感じる（宿題の少なさや、やらない子どもへの親の対応も問題だが、学校での指導も問題がある気がする）。
- ◆ 小中学校の支援級クラスがどんどん増えている印象。教員の教育の機会を増すべき。
- ◆ 子どもが安曇養護に通っているが、バスの送迎時間などで仕事に支障が出る。安曇野市内に分校など作ってほしい。
- ◆ 豊科南小だけ高学年の学童（放課後預かり長期休暇預かり）がないのはなぜか。同じ税を払っているのに他校にはあって南小だけないのが納得できません。児童や子どもに対して充実した施策を真剣に取り組んでほしい。
- ◆ 他県より給食費が高いのはなぜか。その分内容がいいということなのか。
- ◆ 小学校の支援級利用児が近年とても増えている。対応できる先生の人数がなかなかそろっていない様子なので、加配等の支援強化があれば先生方の負担も少しは減るのでは。また、小中で支援級を利用している子どもたちが高校進学する際、今までのような支援が途切れてしまう現状。市と県で連携を図って、不安なく進学先を選べる未来になればいい。
- ◆ 三郷小学校について、耐震工事でなく建て直しが必要。人数も多すぎるので分散するべき。教育レベルが低い。
- ◆ 自然保育はいいのですが、その先の義務教育が硬直しています。無言で礼をさせる、はい！と答える、など昭和の小学校でもなかった軍隊のような教育がいまだにされています。
- ◆ 体を動かす機会を増やすなどしてほしい。
- ◆ もし今度信州大学が新学部の設置を検討することができれば、安曇野市も立候補してほしい。
- ◆ 有名大学のキャンパス、学部を誘致し、若者が集まるまちづくりの形成。

生涯学習(30代)

- ◆ 年齢にあった活動場面や、勉強ができる機会、種類がもっとあるとうれしいです。
- ◆ スマホやPCが苦手な人々が学べる場をつくってほしいです。
- ◆ シニア世代の学び、活躍の場があるのでしょうが、なかなか周知されていないと思います。

伝統・文化(20代以下)

- ◆ 豊かな自然環境に恵まれた郷里の文化（農畜水産、衣食住、歴史資産等）の教育を、食育や体験学習などを通じて伝承し、安曇野の各地域に残る風習や行事の理解を深め、郷土愛を育む人材育成に力を入れてほしい。
- ◆ 常念岳から白馬まで見通せるロケーション。10年前に越してきて最高の場所を「終の棲家」にできたと喜んでいます。芸術家、思想家、多くの文化人を育んだ風土。こうしたレガシーを是非大切にする市政であってほしいと思います。
- ◆ 美術館、博物館の見直し、効率化を提案します。市民が身近に感じ、魅力的と考える施設に限定して施策を検討してはどうでしょうか。穂山美術館は、いつまでも大切にしたい地域の美術館です。安曇野市で支援すべきと思います。

防災対策

- ◆ 地区により災害時避難場所がない（地震の時）。
- ◆ 地震による被害時、災害時避難所がない。公民館は指定所でないため。
- ◆ 防災無線で火事の場所を流してほしい。
- ◆ 防災・防犯等に場内放送が聞き取れない地域にいるため、情報がない。場内の状況を一度点検し、早急に対処してもらいたい。
- ◆ 防災意識を市民に意識させるためにも、近隣の自治体のように防災士の取得資金などを補助するのも良い。

交通安全

- ◆ 踏切改良について（柏矢町駅南）。歩行者と車両との分離がない。交通事故防止及び交通の円滑化をしていただきたい。
- ◆ 歩行者等安全性の向上を県及国土交通省へ支援等実施要望願います。
- ◆ 自転車通学の子どもたちの道路の整備。外灯、交差点等、防犯対策。事故などないよう整備してほしい。あまりにこぼれている場所があるのではないか。
- ◆ 小学生等の通学路の整備を。
- ◆ 現状大変満足している。子どもの集まる場所（児童館・宿・ダンス教室）の周りには歩道を設けるなど子どもの安全の確保をし、必要箇所には信号機を設置していただけると有り難い。
- ◆ 街灯を増やすことで、交通事故を減らすことにつなげてほしい。
- ◆ 住宅地以外で周りにあまり家がないところの街灯の設置等を検討してほしい。
- ◆ 健康維持のためにウォーキングを日課にしているが、仕事や家事が落ち着いた夜間は、暗くて不安がある。公園や住宅街の外灯をもっと増やしてほしい。（通学路も暗いです。）
- ◆ 通学路の街灯が非常に少なく危ない。
- ◆ 道が狭くて自転車に乗れない。街灯が少なくて危ない、真っ暗で何も見えない場所もある。点字ブロックが少ない。

防犯対策

- ◆ たまに不審者がいるのでパトロールしてほしい（特に穂高公園は怖くて行けない）。

幹線道路の整備、生活道路の整備

- ◆ 以前に比べて週末の車道の渋滞箇所がかなり増えた。
- ◆ 朝の光橋の渋滞を何とかしてほしい。
- ◆ 駅や公共施設へのアクセス道路が不十分 (JR 豊科駅周辺)、道路の狭い場所の改善 (一本道は幅員を一定に) (地域の要望を重要視)。
- ◆ 柏矢町駅北側の踏切を過ぎた歩行者用の舗装道路に、クラックが多いので整理してほしい。
- ◆ 車道が凸凹で大変走行しづらい。
- ◆ 市道で、穴のあいている所が多い。大変危険なので、早めの修理をしていただきたい。
- ◆ 国道 147 号線と広域農道間のアクセスが悪いので、接続道路を増やしてほしい。
- ◆ 国道・県道に限らず、歩道が設置されていない箇所が多く、設置し始めてもなかなか進捗しない。また県道では狭隘道路に近い道路もあり特に明科穂高間 85 号線は早急の改善を望む。
- ◆ 柏矢町駅の南側踏切改善を。車等すれ違いができない。安全性の向上を。
- ◆ 市内交差点において、右折レーン及び右折専用信号を整備していただきたい (豊科駅入口や防災広場等)。
- ◆ 明科デリシアの出入口が危ないので信号機あれば助かります。
- ◆ 403 号線は交通量が多くなって大型車も多く高齢者の歩行は困難。
- ◆ 歩道・自転車道の整備が必要。
- ◆ 自転車が安全のために、運転できるように整備してほしい。
- ◆ 道路の拡張や、歩道を増やしてほしい。右折レーン含む。
- ◆ 道路を広げてほしいと思います (特に山麓線)。温泉客やサイクリングをする人が歩けないし、自転車も側溝が閉じてないので乗れない (危なくて)。
- ◆ 通学生徒、高齢者が安心して歩きやすい道路環境 (歩道が分断して造られている。道に大木がはみ出している。三郷)
- ◆ 歩行者や自転車にとって通行しにくい道路が多い。例えば、一日市場駅から三郷中学校までの途中の道には歩道がなく、夜は怖いこともある。
- ◆ 山麓線は生活道路としてばかりでなく、観光の点からもいい道路だと思っているが、道幅が狭く、サイクリングをしている人やウォーキングをしている人がいると危険。また、街灯が少なく、ミラーの設置もしてほしい (夜の運転は怖い)。
- ◆ 公道は細くても整備をしてほしい (除雪も可能ならしてほしい)。
- ◆ 側溝に蓋のない狭い道路が多く雪が降ると危険。駅に向かう道、割と交通量の多い道でも狭い。通勤通学で使う人が多い道もしっかり整備してもらえたら。
- ◆ 側道や道路の雑草が多く、草取りしてほしい。
- ◆ 主道以外の道路脇の枯れ木、枯れ草なども整備していただけたら有り難い。

公共交通網

- ◆ バス、電車を増やしてほしい。
- ◆ バスなどの公共交通機関をもっと充実させてほしい。
- ◆ 市営バスがなく、不便を感じる。自家用車がないとどこも行けない悲しい市。
- ◆ 車を持たない市民が行動しやすい市バス等の運営をしてほしい。

- ◆ 高齢者や学生等、自動車を運転できない人たちのための定期バスの運行が必要では？
- ◆ 公共機関として路線バスがあつてほしい。
- ◆ 車が運転できないと暮らしにくい。公共交通機関の充実が必要。
- ◆ 公共交通を充実してほしい。車が乗れなくなった時が不安。コミュニティバスだと範囲が限られる。
- ◆ 車の運転できるうちは良いが、免許返納してしまえば移動手段に不安がある。あづみんを利用するのにも地域が限られていて不便と聞いている。交通網を使いやすいようにして。
- ◆ 池田のあづみ病院に通院しています。あづみんのルートが通るようにしてほしい。都合が悪いので。買い物は生協を利用しているので良いが、車を運転しなくなるとすごく困ります。
- ◆ 今後の高齢化に伴い公共の乗り物（例あづみん）等の使い方をもっと考えてほしい。例えば妻が急病（夜中）夫は認知低下の場合、救急車かタクシーしかないので困ることが多い。昼間の場合も、相互の助け合いがもっと気軽にできる方法は？
- ◆ 車を手放した後の交通手段を安くしてほしい。他町へ行けば、600円・往復1200円はどこを基準にしているのかわからない。時間を決めて循環バス等検討してほしい。
- ◆ のるーとを利用しています。他の地域へも行きやすくしてほしい。乗合エリアからでなく、運行エリアから他地域への移動ができるように（料金はアップされても可）。
- ◆ 子ども中心でなく高齢者にやさしい市になってほしい。あづみんを100円台にしてほしい。ほかでは無料でスーパーへ連れていってくれる、松本～新島々まで70歳以上は100円と聞く。あづみんは往復600円もかかります。とても600円は使用できない。
- ◆ 高齢化社会に向け公共の乗り物など増やしてほしい。
- ◆ 自然が豊かで気に入っているが、これから車の運転が（年々）できなくなったら買い物や病院など、どうしたらいいか不安。
- ◆ 車を返してしまったので主人の都合もありやや不便と感じている。
- ◆ 高齢者が免許返納しても生活しやすい安曇野市であるよう望みます。
- ◆ 今後の高齢化へ向けての交通網の整備、ごみステーションの設置（マイカー必須の生活改善）
- ◆ 公共交通機関が不便です。五つの地域によっても差があるように思う。使う人が少ないので交通機関を減らすよりも、整えて使用しようとする人を増やす方が、観光客にとっても良い。
- ◆ 梓橋駅階段は公共交通機関利用の大きなバリア、なくしてください。

商業振興(20代以下)

- ◆ 穂高に家を建てましたが近くにお店も、たくさん出来、便利になりました。
- ◆ 山麓線沿いに個性的なお店が多いのは観光の面からもとても良いと思う（コンビニは無理なのでしょうか）。
- ◆ 個人経営などのお店をより支援し増やしてほしい。大型のショッピングモールなどで、他のお店が潰れるのはもったいない。
- ◆ 全国チェーン店など増えているが、安曇野らしい場所、お店がなくなっている気がします。
- ◆ 商店街の活性化と整備。店（個人）が少なくなり、高齢者には不便。
- ◆ 明科駅前いつまでたっても整理されず薬・衣料店などが必要。

気軽にみんなが寄れるような飲食店があれば良い。

- ◆ 気の利いた飲食店（飲み屋、料理店）、郷土料理の店とか訪問者等を接待する所がない。また、第二の人生を楽しむ、寄り集う所があればいい。
市長が飲めなくとも昔のように、市の職員等が積極的に夜の飲み会でもやってほしい。
- ◆ もっと若い世代に魅力的な施設やショッピングモールをつくってほしい。
- ◆ 安曇野市に他近隣地域にない商業施設を誘致してほしい（コストコやアウトレットモールなど）。長く安曇野市に住んでいるが、いつまでも田舎。他地域と同じ施設があっても、若者は都会に出て行ってしまう。合併する前の方が楽しい店もあった気がする（飲食店なども）。
自然は大切だが、今後住宅地域も増えると思うので、ショッピングモールを中心に生活しやすい住宅街づくりを（今の時代に合った、便利で楽しい市）。
- ◆ 穂高有明あたりに大きなスーパーが欲しい。コストコや穂高にある MUJI などの感じのもの。（Big はお年寄りが多く、ツルヤ駐車場が怖い。ほとんどオーガニックのものがない。）
穂高有明にモール（パン屋、セリア、オーガニック商品の多いスーパー、本屋、安曇野のお土産屋さん）。観光客も必ず来ます。駐車場が大きければ。穂高駅前、もう少し活気が必要。駅そのものもダサい。子ども服が西松屋しかない、結果松本へ。
- ◆ 映画を月1回は観に行くのが、松本まで行かないといけないので市内にも造ってほしい。同様に娯楽も松本はたくさんあるが市内で考えるとパッとしないから年齢ごとに楽しめる場所があれば良い。あと気持ち飲食店が多い、そんなに要りません。
- ◆ 遊べる面白い施設やのんびり過ごせるような施設がもう少しあつたらいいなと思う。
- ◆ 安曇野市内には雨が降ると遊べる場所がない。雨でも利用できる大型施設が出来たら良い。
- ◆ 子ども用品店や、子連れでも楽しめる施設、飲食店を増やしてほしい。
娯楽施設が少ないので増やしてほしい。（本屋、カラオケ、映画館、市民プールや屋内プール）
駅に駐車場が欲しい。
- ◆ 駅前に多数飲食店があれば良い。

労働雇用環境

- ◆ 移住者・定住者が増えるのは大歓迎だが、若者の定住者が増えてほしい。少子化対策が課題。
若者が生きがいを持って働く企業、会社が増えてほしい。若者の流出を防ぐ対策を検討。
- ◆ 女性の県外流出が多いです。仕事をする場所をつくってあげた方が良いと思います。
- ◆ 高齢者のアルバイト、求人情報（国、県、市の市内での仕事）に関し、まとめて公開する場を作ってほしい。
- ◆ 難病の人でも在宅で働く仕事があれば、ご紹介いただけすると有り難いです。

地域の情報化（20代以下、50代）、効率的な行政運営（20代以下、30代）、市政情報の入手（20代以下、30代）

- ◆ 水道代、クレジットカード払いに、学校の集金はキャッシュレス決済にしてほしい。
- ◆ 請求書に印をつくのを廃止し、市の助成、補助申請がもっと電子でできるようになればいい。
- ◆ 紙ベースの情報伝達を減らしてほしい。
- ◆ 紙類をもっとデータ化してほしい（特に若い世代）。何枚も重要書類を書いたり、保管しておくのは大変だし、紙の無駄にもなっている。

- ◆ 効率化＝行政サービスの低下、だと思うので効率化ばかり考えないでほしい。
職員の負担が大きいのではないか。職員を増やした方が良いと思う。
- ◆ 今はデジタル社会ですがスマホの使えない年寄りをおいてきぼりにしないでほしいです。
- ◆ 高齢者はデジタル化に慣れないで紙面での配布物も引き続きしてほしい。
- ◆ 全てデジタル化にせず、アナログな方法も残していってほしい。選択肢が多いことが豊かさにつながると考えている。
- ◆ この1月埼玉県八潮市で、下水管破損で道路陥没が起きました。安曇野市でも同じような災害が起きないか不安になので、市ではこのような下水道管理対策を行っている、このような対策を行うとか「あづみの」等の広報で知らせて安心させてほしい。
今後、他市町村で行政が関わるような災害や事故が発生した場合も同様。
- ◆ 広報あづみの「広報紙」の印刷はカラーでなく、白黒で十分。用紙も薄くて十分。
- ◆ 「広報あづみの」は充実していて満足している。
- ◆ もっと様々な情報がひと目でわかるようなシステムができたら良いと思う。
- ◆ 市で行っていることに無関心な人、否定的な人が一部にいる。難しいが、広報活動で、もう少し身近なこととして考えていけるような方向に工夫できないだろうか。
- ◆ どんな政策が行われているか見えてこない（PRが悪い）。
- ◆ 市政に関する情報を広めないと、こうしたアンケートもあまり参考にならないと思います。
SNSや公式サイトでの積極的な情報発信を期待しています。